

# 平成30年度 病害虫発生予察情報

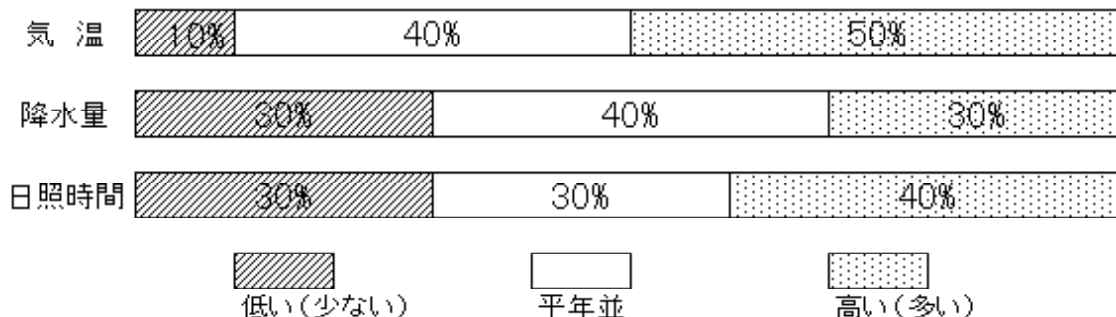
## 発生予報 第1号 (4月)

平成30年 4月 4日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並～やや多い
		赤かび病	平年並～やや多い
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	イネスズムシ	やや少ない～平年並
	ナシ	黒斑病	やや多い
野菜	タマネギ	ハダニ類	やや少ない～平年並
		ボトリクス属菌による葉枯れ	平年並
		白色疫病	やや多い
	イチゴ	べと病	平年並
		腐敗病・軟腐病	やや多い
		灰色かび病	やや多い
		うどんこ病	平年並
		アブラムシ類	やや多い
		ハダニ類	多い

中国地方1か月予報(3月31日～4月30日・広島地方気象台3月29日発表)  
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



### A. 普通作物

#### 1) ムギ

##### (1) さび病類

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

①現在、発生を認めていない。

②ムギの生育はやや早い。

③4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

##### (2) 赤かび病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

①現在、発生を認めていない。

②ムギの生育はやや早い。

③ 4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①現在、発生を認めていない（平成4年以降、3月末の発生は未確認）。また、近年の発生量は少ない。

②ムギの生育はやや早い。

③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

①予察灯による前年の新成虫の誘殺数は39頭（平年89頭）とやや少なく、本年の越冬量はやや少ないと考えられる。

②4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

①前年の発生量は平年に比べてやや多い。

②4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は0.0%（平年16.7%）、平均越冬虫数は0.0頭/バンド（平年0.4頭/バンド）とやや少ない。

③4月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①3月下旬の発生量は、発生ほ場率が3.3%（平年0.3%）、発病株率は0.1%（平年0.0%）と平年並みである。

②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

①3月下旬の発生量は、発生ほ場率が30.0%（平年30.0%）、発病株率は3.6%（平年1.2%）と平年に比べてやや多い。

② 4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の越年罹病株の発生量は、1万株当たりの発病株数は2.7株（平年6.9株）、発生ほ場率は16.7%（平年29.8%）と平年並みであったが、発病株率の極めて高いほ場も確認されている。発生量は平年並みであるが、要防除水準を超過しており、今後二次感染株の発生が懸念される。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生ほ場率が16.7%（平年11.5%）、発病株率は0.8%（平年0.3%）と平年に比べてやや多い。

② 4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が2.1%（平年0.6%）、発病果梗率は0.6%（平年0.2%）と平年に比べてやや多い。

② 4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が0.2%（平年0.1%）、発病果率は0.3%（平年0.2%）と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生ほ場率が30.0%（平年22.5%）、寄生株率は9.0%（平年3.9%）、寄生小葉率は1.3%（平年0.9%）と平年に比べてやや多い。

② 4月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生ほ場率が80.0%（平年55.7%）、寄生株率は65.0%（平年19.6%）、寄生小葉率は50.2%（平年14.5%）と平年に比べて多い。

② 4月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

注）平成30年度 病害虫発生予察情報 技術資料第1号 参照。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10か年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは

[http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所  
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)  
〒693-0035 出雲市芦渡町2440  
TEL 0853-22-6772  
FAX 0853-24-3342  
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp